

TNVNは2017年12月で25年目を迎えます

TNVNは東京都内で外国人の学習支援を行っているボランティア日本語教室の連絡会(ネットワーク)として会員への情報提供や相互の交流活動を行い、四半世紀になります。そして日本語の学習を希望する方々に情報を提供してきました。2017年度第1回運営委員会(2017年7月14日(金):TVACロビー)を開催しました。

- ①TNVN会員の推移
- ②冊子「ボランティア日本語教室ガイド」発行年度の掲載団体数
- ③TNVNホームページ「ボランティア日本語教室ガイド」「お問合せ」欄から日本語学習希望者が各教室にメールする問合せ状況
- ④出前講習会の実績 を報告しました。

会員の推移

会員は都内で活動しているボランティア日本語教室・団体やTNVNの活動に賛同される団体です。1993年設立以来ご支援・ご協力を得ています。

◆正会員

昨年度(2016年度)までの正会員数をグラフ化しました。[グラフ-1]

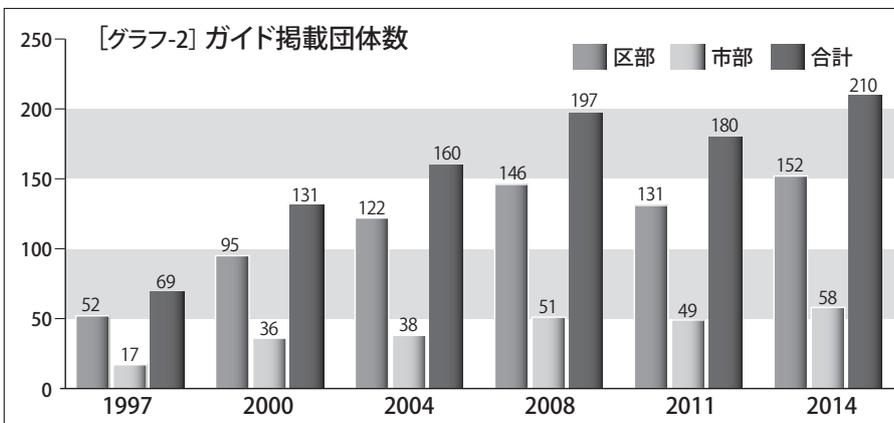
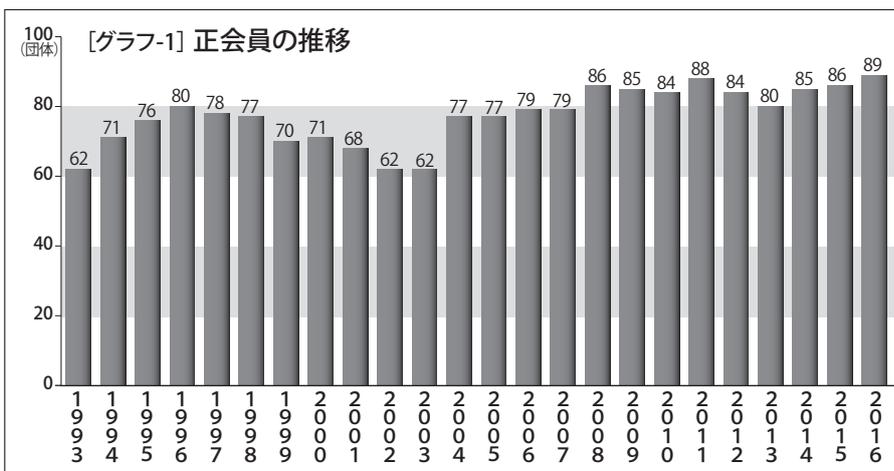
設立時62団体でスタートし増減の時期があり、事情で退会する団体がある一方、新たに入会する団体があり、現在(2016年度末)は89団体となりました。

◆協力会員

設立後数年100名以上でしたがその後減少し現在16名の方に支援を戴いています。当初協力会員が多かったのはTNVN開催の講習会参加者の加入です。

◆賛助会員

常時3~4の会社から賛助会員として、またこの数年間個人の方からと理解あるご支援を戴いています。



ガイド掲載数の推移

冊子「ボランティア日本語教室ガイド」

は日本語学習を希望する外国人に情報を提供する目的で、都内で活動しているボランティア日本語教室に協力を求め、

1994年以降3～4年毎に助成金を得て発行してきました。

ガイドに掲載した団体数・教室数をグラフにしました。[グラフ-2]

HP学習希望問合せ件数

TNVNのホームページから「都内で活動しているボランティア日本語教室」が検索できます。日本語学習を希望する人が望む教室に直接問合せができます。

2015年・2016年・2017年の4月～7月の学習問合せ状況をまとめました。

問合せ件数は増加の傾向にあります。2017年は3ヵ月間で330件、1日平均10件の学習希望の問合せがいくつかの教室にされています。また問合せに丁寧な返事をされる教室があり、受け取った学習希望者からお礼の言葉が返ってくる場合も多く見受けられます。

①学習希望問合せ(区部と市部)

区部と市部に分けて教室への問合せ件数を集計しました。[グラフ-3]

90%以上が区部に集中しています。居住地域・生活環境や地域の教室数による違いがあると考えられます。

②学習希望問合せ(区市上位)

問合せ先教室を区市別に、問合せ件数の多い上位(区部12, 市部1)をグラフに示しました。[グラフ-4]

ただし区市によっては行政区域の教室を一覧にして紹介しており、TNVN-HPで検索する必要が無い人もいますと考えられます。

土曜日、夜、週複数日開催の教室への問合せが多い傾向にあります。複数の教室に問合せをする学習希望者も見受けられます。

を迎えて、講習会を実施してきました。

また1995年から2004年までは、毎月、会員団体のベテランボランティアや識者を講師に事務局で入門講座を開きました。

1997年頃からは、講座の企画、講師の派遣などを、区市やボランティア日本語教室団体から依頼されるようになりました。毎年継続して依頼される場合やその年1回だけという場合もありますが、ここ8年の依頼団体は5区、3市、都外2、ボランティア団体9です。年平均6団体から依頼されています。

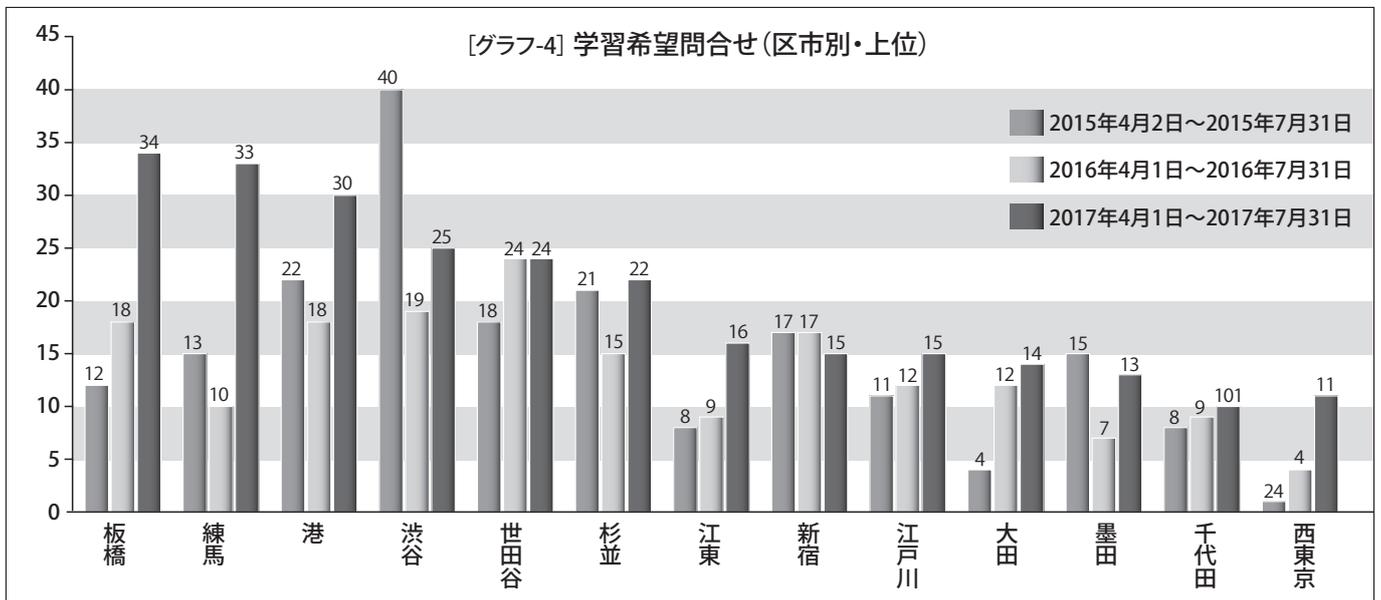
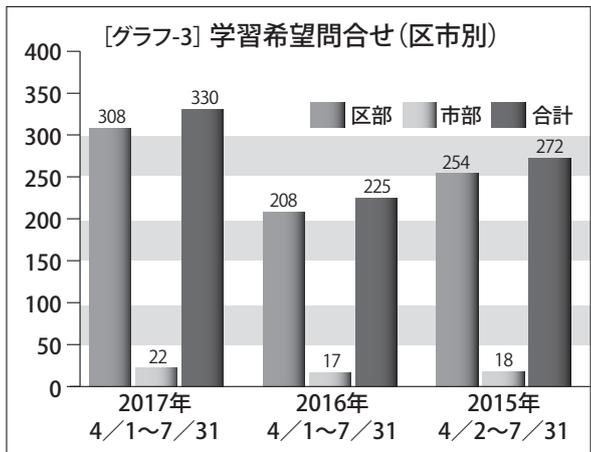
時間数は、依頼団体により1回2時間から10回20時間までまちまちです。講座の目的は、日本語ボランティアを始めたい人たちのための「入門講座」と、日本語ボランティアのブラッシュアップのための「研修会」が中心ですが、最近は「わかる日本語講座」を頼まれることも多く、その他、外国人の子どもたちを支援している人たちのために「子ども支援研修会」も引き受けています。

講師を務めるのは、長年、日本語ボランティア活動もしている日本語教師、「わかる日本語研究会」のメンバー、子どもたちを中心に支援しているベテラン日本語ボランティアたちです。

それぞれ実際の活動を通して学んだ知識、学習者への対応の仕方など皆さんにお伝えしようと努力しています。

出前講習会の実績

TNVNは、スタートしてまもない1994年前半に、会員の強い要望に応え、第1回日本語ボランティア講習会を自主開催しました。その後も東京ボランティア・市民活動センターの会場



高齢にほんごボランティアと相互学習

石原 弘子 にほんごの会くれよん (目黒区)

寄稿

今、多くの団体で、日本語ボランティアの高齢化が問題になっているようだ。高齢化が問題だとする人たちの声や筆者の経験からいうと

- 身体的衰えによること(聞き取りが悪い、滑舌が悪い)
- 若い学習者の学習の進め方についていけない(例:電子機器が使えない)
- 説明が冗長(いつまでも、ひとりで話している)
- 自分のやり方に固執し、新しいことに挑戦する意欲が少ない

ということになる。

2006年の米勢治子氏の論文を手掛かりに考えてみた。

米勢氏によると、地域日本語教室の活動内容・方法は従来の学校型日本語教育をモデルにしており、それらを効果の視点から分類すると、(1)日本語教師型(ボランティアの専門性に支えられている)、(2)学習者依存型(教える側の技術が未熟であっても、学習者の日本語能力、学習能力に支えられている)、(3)学習不在型(ボランティアが未熟で自律的な学習能力が低い学習者や初心者の学習者の場合に起きやすい)に分かれるとし、これらに対し、地域日本語活動を相互学習と位置付けた「地域型日本語教育」が提唱されてきたと述べている。そして、ボランティアと学習者の関係性から、(1)教師一生徒型、(2)学習支援型(運転免許取得など学習者自身の目標に対して、支援していく)、(3)共同学習型(学習者とボランティアの対等な関係性に基づいている)に分けている。

この分類に従えば、教師一生徒型の場合、教える技術の高い高齢者は継続が可能であるが、身体的な衰えから難しく

なっていく。未熟な場合、日本語力のある学習者にのみ対応することで継続は可能であるが、学習不在型になりやすい。

学習支援型の場合、ある分野で経験豊かなボランティアは、年齢に関係なく継続しやすいと考えられるが、同じ目標をもつ学習者がいない場合、継続は難しくなる。

いずれにせよ、ボランティアの研修というバックアップなしでは惰性になっていく。

筆者の所属する「にほんごの会くれよん」では、7月27日、元法政大学キャリアデザイン学部教授の山田泉氏の研修会を催した。氏は、地域日本語ボランティア教室の役割は社会変革を目指す相互学習である。ボランティアと学習者の関係を「教える—学ぶ」から「ともに学ぶ」に変えることが、これからの日本語ボランティアの役割だと話された。これは、米勢氏の言う「地域型日本語教育」に当たるものであろう。

筆者は、自分が高齢化することで、日本語初歩の方の日本語習得支援でなく、意思疎通のしやすい方とともに日本の文化、その人の文化を、読む、話す、書くという作業を通して、「ともに学ぶ」活動をつくりだしたいと考えている。先日、香港の方が香港で読まれている「各国昔話集」のような本を持ってきた。日本の「かちかちやま」が思いもよらない展開の話として掲載されているので、その国らしい事情が感じられた。日本語らしい言い回しの紹介は、新しい日本語習得になったようである。

素材さがしは、ひとりでは限界があるが、高齢者どうしの話し合いで見つけることができる。それまでの人生で出会ったいろいろな分野の書物を紹介しあうことは、外国人との活動のためだけでなく、自分のこれからの人生にも役に立つ。今年使った素材は、手紙、詩、歌謡曲、昔話、漫画、広告、旅行ガイド、写真。これから落語、クイズ、人生相談、料理本など、取り上げる素材を変えてやってみたい。いっしょにやったださる外国人からも素材の提供を受けたい。「ともに学ぶ」関係を模索することが、高齢日本語ボランティア、高齢学習者を排除しないことにつながるかを考えていきたい。

【参考文献】

米勢治子(2006)「『地域日本語教室』の現状と相互学習の可能性—愛知県の活動をとらえて見えてきたこと—」『名古屋市立大学人間文化研究科 人間文化研究』No.6 2006年 pp105-119

素材の一例



外国語で自己紹介 予告編！

日本語教師 金子 広幸



ちょうど20年前、とある都内の日本語教師養成講座に勤務していた時のことです。受講生のみなさんが「初めて日本語社会に降り立ち、これから日本語で何かをしていこうと思っている外国人学習者の気持ちを知る」ためにはどうしたらいいか、我々講座担当者は毎日頭をひねっていました。日本語社会でのほほと日本語を使っている人々には、この辺を実感するのは難しいことですからね。そんなとき編み出したのが、この「外国語で自己紹介」でした。

文章で説明するのは難しいのですが、活動はこんなふうに進めます。

- 講座の参加者には、「外国語で自己紹介をする」とだけ伝え、何語を使うかは秘密に。たまに予習してきてしまう人がいるのです。あくまでも何の“予習”もなく日本語社会に飛び込んできた学習者の気持ちを実感するために、まっさらの状態での活動に参加していただきます。
- はじめに簡単にこの活動の意義と、これはあくまでも模擬活動だと

いうことを理解してもらいます。

- 十分に意義を理解したら、その外国語を使って自己紹介している2人の様子を“何度も”観察してもらいます。本当は動画がいいのですが、アナログ人間金子は「手人形」という手法を使います。両手の指を閉じて、白鳥の頭のような形を作り、顔の前で向かい合わせるのです。交互に、指を開いて動かして、話しているようにすると、会話の場面が再現できます。多くクラスでは教師は一人ですから、会話の場面を学生たちに示すときにこの方法を使っています。

この手人形で以下のような発話を順番に提示していきます。

A: こんにちは。お名前は？

B: カネコです。

A: あ～、カネコさんですか。

B: はい、そうです。お名前は？

A: サイトーです。

B: あ～、サイトーさんですか。

A: はい、そうです。

AB: どうぞよろしくお願いします。

今日は特別に日本語で書きましたが、活動では「全部外国語で」、もちろん「日本語による翻訳や文法の解説は加えたりはしません」し、文字で見ることありません。目と耳が頼り。

- ちゃんと言えるようになるまで、オウムのように口ならし練習。参加のみなさんの様子を見て、練習の回数を決めてもらったりしながら、文型練習も

します。

- 練習の結果、ある程度言えるようになったという実感が参加者にあったら、立食パーティーのように立ち上がり、全員で「その外国語で」自己紹介をし合い、顔と名前を全員一致させるタスクにチャレンジします。

ここまでおよそ80分前後。練習の回数は70から120回に及びます。私はこの20年、あちこちの地域支援の場で、この活動を紹介、「金子名物」となっていますが、不思議なことに地域によって完成までのタイミングや所要時間が全く違います(なぜか千葉県ではどこの市もとても速い!)。金子は新興宗教の教祖のように、練習を強硬に導きますが、短い時間でも上に示した会話文がちゃんと「その外国語で」口から出て来るようになります。嘘ではありません。

金子もわざとユーモラスな指導者を演じ、時に意地悪く進めたりして運び方を工夫します。でも、決して参加者にプレッシャーを与えたりはしません。そして、最後まで文字は使用しません。

参加後の感想は次回に詳しく載せるとして、この活動、さらに広い範囲でいろいろなどを実感していただくとても良い機会なのです。

…というわけで、今回はここまで！次回は「講演参加者」の立場から見たこの活動です。お楽しみに！



紙上教材 お月見

日本人は自然の景色を楽しみます。「花鳥風月」や「雪月花」は美しい景色を説明する言葉です。月は美しい景色のひとつです。

昔のカレンダーでは7月から9月まで秋でした。秋の真ん中の8月15日にお月見をしました。

8月15日の月を十五夜(中秋の名月)といます。

中秋は秋の真ん中という意味です。

この日の月は特別な月と考えます。

美しい満月を見ながら秋の収穫に感謝します。

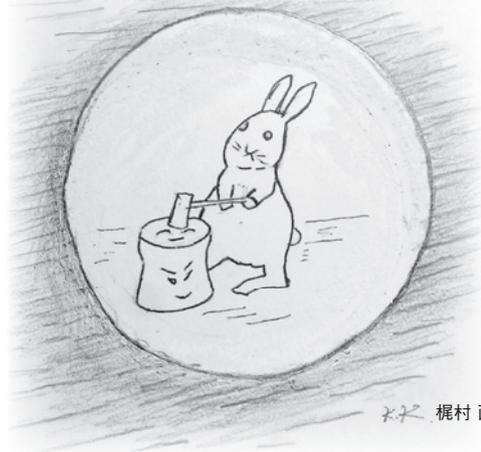
2017年の中秋の名月は10月4日です。

お月見の習慣は昔中国から日本へ来ました。

最初は偉い人達が月を見ながらお酒や



梶村画



梶村画

食事を楽しました。

後で普通の人がお月見をするようになるとお月見は収穫に感謝する行事になりました。

お月見の習慣は今も続いています。

十五夜に月の見えるところに月見だんごや野菜や果物を飾ります。

月見だんごは大きいだんごを十五夜の十五と同じ15個飾ります。

月と同じ丸いだんごを食べると幸せと健康になると考えます。

稲穂を飾りたいですが稲刈りの前なので稲穂の代わりにすすきを飾ります。

日本人はお月見の行事を楽しみます。

そして月に親しみを感じます。

日本人は月の中でうさぎがモチを搗いていると考えます。

また竹から生まれたかぐや姫の話があります。かぐや姫が大きくなって満月の夜に「私は月の世界のひとです」と言って月へ帰る話です。

日本の文化を知るために月は大切な景色です。

■ 国の違う人と人が知り合って親しくお話しできることは素晴らしい

シビック日本語 文京日本語交流員の会 (文京区)

塚越 啓子

文京日本語交流員の会は水曜日の夜と木曜日の午前に日本語教室「シビック日本語」を行っています。「シビック日本語」と名付けたのはシビックセンター(区役所)内の会議室を借りて教室を開いているからです。毎回抽選なので、会場確保には苦労しています。

私たちは会の名前が示すように「交流」を主目的に活動しています。夏と冬にパーティーを催したり、遠足や花見、観劇にも出かけました。

今年は7月8日に「夏祭り」をしました。学習者の方々はボランティアが持ち寄った浴衣を着せてもらって、写真を撮ったり、お茶をたてたり、お習字をしたり。また、かるた、折り紙、ちぎり絵など日本の

遊びも楽しんでいました。ボランティアも各々の係で一緒に楽しみました。

そして、メインの活動が日本語教室です。

日本語学習はもちろん、子どもが通う学校からの手紙を理解したい、日本での生活の情報を知りたい、論文の日本語を見てほしい、日本人と話したい、などいろいろな要望があります。私達は一緒に銀行へ行って手続きをしたり、お店を紹介したり、困っていることがあれば区役所内です。すぐ担当部署へ相談に行ったりもしています。



日本語教室を始めて16年目になりますが、本当にたくさんの国の方々に会いました。国の違う人と人が知り合って親しくお話しできることは素晴らしいことだと思います。これからも多くの方と交流を深めたいと思っています。

会員団体紹介

Nice to Meet You

1989年に中野区の外郭団体として中野区国際交流協会が発足しました。その翌年には日本語ボランティア実践講座が始まり、その修了者により日本語講座が開設されました。火曜日の午前・午後、木曜日の夜の3クラスがあります。そして2000年以降、既存のクラスに年齢期の子どもの増えてきたことにより、小



nice to meet you

■ いつからでも、いつまでも学べる日本語

中野区国際交流協会 (ANIC)

日本語講座 / 子ども日本語クラス (中野区)

鈴木 加奈

中学生を対象とした子ども日本語クラスを火曜日と木曜日に開設し、現在は全部で5つの日本語クラスを実施しています。

昨年度は、全213回の講座に、延べ5,105人のボランティアが参加、延べ7,050人の学習者に日本語指導を行いました。学習者はアジアの方が多いですが約50か国、様々な国籍の方が学んで

います。

こうした日本語クラスを支えてくださっているのが、実践講座を修了したボランティアの皆様です。修了後もそれぞれの指導技術を磨くための勉強会を実施し、1期から28期までのボランティアの方々が一緒になって切磋琢磨しています。

また、夏休み・春休みは子どものための特別クラスを実施しています。今年の夏も、43人が月・水・金(全12回)集中的に日本語を学習しました。そして最終日には、恒例の公開スピーチが行われ、中国・ネパール・タイなどの子どもたちが、自分の夢や夏休みの思い出を日本語で語りました。緊張しながらも一生懸命話し、小中学校の先生や保護者の方々に成長した姿を見せることができました。

学習者の声

邵丹 / 中国
あつまれ日本語ひろば (東大和市)

自分が学んだことで
誰かの役に立ちたい



私は中国の大連から来日しました。今年で4年目です。日本に来るまで、ずっと日系会社に勤めていましたので、日本での生活に慣れていましたが、実際に生活してみたら、想像していたのと違って、海外生活の大変さを楽しみじみと感じています。

娘が1歳2か月の頃、私は娘を連れて“あつまれ日本語ひろば”に通い始めました。先生達は子供の面倒を見てくれたり、熱心に教えてくれたりのおかげで、去年の7月に、私は日本語能力テストN1級に合格しました。先生達は日本語を勉強するお手伝いだけでなく、たまには生活の悩みの解決や相談にも乗って頂けます。教室に色々な国から学習者が集まってきて、皆日本語を

通じてコミュニケーションをとる事も出来ます。“あつまれ日本語ひろば”は私にとって、かけがえのない場所です。

現在、娘は3歳で保育園に預けています。クラスに中国人の子供は4人います。親は中国人です。保育園では一年中、色々な行事が行われます。その時、私は皆の通訳をお手伝いします。このような小さな事でも周りの人助けができて、これ以上楽しいことがないと思います。

普段、私はよくテレビを見ます。テレビは日本語の勉強にもなるし、日本と中国の文化や習慣の違いも少しずつ理解するようになりました。最近、私は「和食」に興味があります。なぜかという、中華料理と違って和食は栄養バランスを考えながら多様で新鮮な食材で作った料理は健康に非常にいいですから。家では、ほぼ毎日味噌汁を作っています。家族も喜んで食べてくれます。

今後、日常必要な会話や作文の書き方をもっと勉強して行きたいです。いつかボランティア活動に参加し、自分が学んだことを生かして、誰かに役立てればいいなあとと思います。

ボランティアの声

代表 / 西山 清
あつまれ日本語ひろば (東大和市)
教室を開設してから8年半

2009年2月に教室を開設してから8年半になります。教室のモットーは“アットホームな文化交流を図る”とし、会員相互の文化や生活習慣を認め合い、対等の立場で学習者の日本語学習を支援する活動を行っています。

学習方法は原則1対1の対面学習です。週に2回開催、各々90分の教室です。これまで教室に登録された累計人数はボランティアが59名、学習者は19か国から186名を迎えてきました。

学習者の要望は様々です。学校からのお手紙を読めるようになりたい、漢字の読み書きがしたい、日常会話ができるようになりたい、日本の文化を勉強したい、日本語能力試験N*級に合格したい等々。学習者の日本語のレベルも様々です。先月日本に来たばかりの学習者から、日本語能力試験N1合格者までいます。このような学習者には通訳等ボランティアのサポートしてもらっています。

ボランティアと学習者の対応は原則2か月に

1回変えるようにしています。ボランティア、学習者は休みのこともあり、毎回この学習者とボランティアの対応を考えるのもちょっと大変な作業です。

イベント活動としては、お花見、忘年会、見学会、毎月1回の談話会を行っています。また、広報活動として“ひろばだより”を毎月1回発行しています。

今後もこの“あつまれ日本語ひろば”の活動が日々の生活のように淡々として続けて行きたいと思っています。



◎「ボランティア日本語教室ガイド2018東京」 作成についてお願い

平成29年度東京都在住外国人支援事業の助成を受けて、表記の冊子作成作業を始めました。今回も「ガイド2014」同様、都内で活動するボランティア日本語教室の最新データを掲載いたします。『ガイド』は日本語学習を希望する人々に最新のボランティア日本語教室を紹介し、改めて各教室・団体宛に①ボランティア日本語教室の内容(調査I)②教室に参加する学習者及びボランティアへのアンケート(調査II、調査III)をおこないます。調査へのご協力をお願いします。さらに多くの教室を掲載したいので「ガイド2014」に未掲載の教室がありましたらお知らせください。

◎「わかる日本語」研究会から

●小冊子『子どもを預けたい人へ』を TNVN Network News No.99に同封します(正会員のみ)。
「保育グループ」では、学習者から「小さい子どもを預けて働きたい」という相談を受けた時、ボランティアが学習者と一緒に読んで、保育園などに子どもを預けるためのアドバイスができるように「分かり易い日本語で書いた手引書」を作成しました。

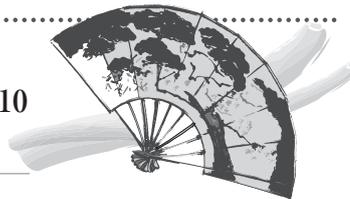
保育に関しては、制度や手続きが複雑で日本人でも分かりにくいです。学習者からの相談に役立てて頂ければ幸いです。

●紙上教材

「年中行事グループ」では日本の有名な年中行事のうち外国人が好む教室などでよく使われる行事を紙上教材として取り上げました。第1回目「お月見」として本紙に掲載しました。

◎TNVNの会員が舞います!!

歓喜の演 Vol.16 狂言遊びをせんとや PART10
創作狂言 お伽草子その参~空に舞え~



- 講演日時/2017年11月4日(土)
14:00開場(13:30開演)
- 会場/西新井文化ホール
Tel.03-5242-8261
- 入場料/一般1,000円(税込)全席自由
高校生以下無料
- 申し込み/080-2048-7469 坂本
- プログラム

【第一部】狂言へのご案内 謡と舞謡にチャレンジ! 日本語の楽しさを満載です。
【第二部】ミュージカルのような創作狂言! 大笑いしましょう! 恒例「豆まき」あります。
●主催/歓喜の演実行委員会
足立区演劇連盟 足立区合唱連盟他
歓喜の演は広く一般公募で参加者を募り、老いても若きも一緒に稽古を重ねて笑い合っています。

column ●ご意見は...

昨年秋、夫婦で通っていた学習者より担当者に「日本人ボランティアより宗教の勧誘を受け困っています。夫は断りきれないようです。」との相談がありました。他の学習者でも、数人が勧誘を受け、それがいやで教室を辞めた人もいたことが判明しました。勧誘していた日本人も特定できました。私達の教室は一对一での授業なので、ほかのペアが何をしているのかが分かりにくいという欠点があります。

活動を初めて約25年、初めてのことに驚き、取り敢えず、宗教、政治などの団体への勧誘を禁じるという一項目を会則に加えました。

また、「入会希望のボランティアに対してこの会則を周知してもらおう。学習者にも、このような勧誘があった場合スタッフに知らせるように伝える。」ということボランティア間で申し合わせました。

この宗教は過激なものではなかったのですが、来日間近の学習者にとってはかなりの恐怖を覚えるものだったようです。申し訳ないことをしてしまったと、ボランティア一同深く反省しています。

他のボランティア団体ではこのような事例はありますか。あればどのように対処していますか。ご意見、ご体験等お知らせください。(杉並区Y.Y)



TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVNの会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通して、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

- ◆日時: 毎週金曜日午後2時~4時
第5金曜日/休み
- ◆場所
東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線)一出口 B2b) 飯田橋駅下車
セントラルプラザビル 10F ロビー
- ◆日本語ボランティア相談窓口
日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフがお応えしています。メール・電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えしています。ご意見もお待ちしております。
〒162-0823
東京都新宿区神楽河岸 1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス No.4
- ◆TEL: 03-3235-1171
(呼出: 金曜日活動時間帯のみ)
- ◆FAX: 03-3235-0050
- ◆E-mail: webadmin@tnvn.jp
- ◆URL: http://www.tnvn.jp/
- ◆郵便局払込
口座番号: 00100-1-719259
加入者名: 東京日本語ボランティア・ネットワーク
- ◆会員数(2017年8月4日現在)
正会員: 89団体
個人協力会員: 14名
賛助会員: 3団体
- ◆編集/大木 千冬、岡田 美奈子、小川 伶子、梶村 勝利、神 歩、床呂 英一、林川 玲子、山内 眞理
- ◆レイアウト/鶴田 環恵